

森と触れ合いながら、子どもたちの五感を育てるサークル「あつま森のようちえんワッカ」は、子育て世代の利用者たちが深い絆を育んでいます。事業の安定と充実を目指し、今春のNPO法人化に向けて準備を進める主宰者の松山さんに話を聞きました。



あつま森のようちえんワッカ 代表
Vol.22 まつやま みちこ 松山 道子さん(46歳)

子育てを通じて 親子や仲間の絆をつむぐ

ミで利用者は増え、現在、2つのサークルに50家族が参加しています。「皆さんの理解や支えが、自信につながっています。感謝ですね」

子育て中の母親は、自分のことを後回しにしがちで、こんなはずではないと孤独に考える瞬間があるといいます。当事者と同じ目線で悩みを察知し、仲間たちとの互いの寄り添いや共感によって、悩みを口にできなかつた人も心を開くといえます。活動で芽生えた「心のつながり」が、松山さんの原動力になっています。

今春の認可を目指し、2つのサークルを統合したNPO法人森のここねの設立準備をしています。法人名には、心の根っこ(自分を支える土台)を育てたいとの思いを込めています。苫小牧と厚真に拠点を置き、松山さんを代表に総勢15人で運営する予定です。「マンパワーを秘めた厚真で、地域と共に子どもの成長を見守る環境を作りたいですね」

根っからの子ども好きで、埼玉県出身。「子どもたちと育ちあいたい」と、小学校の教員を目指し、大学卒業と同時に夢を実現しました。初任地は、現在の安平町立追分小学校で、憧れていた北海道での勤務ができませんでした。「訪れるのは初めて。地図で勤務地を確認したことを覚えています」。その後、苫小牧市内の小学校に異動し、特別支援学級も受け持ちました。平成19年に結婚し、出産・育

児を機に退職。2児の母として、育児を通じて子どもが成長する楽しさを実感し、子育てに関わる活動を考えました。苫小牧市で暮らしていた平成24年4月、森との触れ合いを通じた子育てサークル「青空自主保育木もれ陽の会」を発足。その後、平成29年9月、子育てを含めて町づくりが盛んだった厚真町に移住し、翌年4月に「あつま森のようちえんワッカ」を設立しました。□□

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック
@atsumatownhokkaido



インスタグラム
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

ATSUMA LOVERS